

よしのすぎの木琴

材料

けんばん用の角材
25×15×2000mm 1本

土台用の角材
25×15×1200mm 1本
245mm×2本
180mm×2本
125mm×2本

取っ手
55×100×12mm 1本

すきまテープ
110×5×245mm 2本
※フェルトなどクッション性の高いもので代用もできます。

叩き棒
丸い玉 直径 20-30mm ひとつ
棒 長さ 180-200mm 太さ 5mm 程度 1本

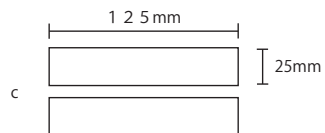
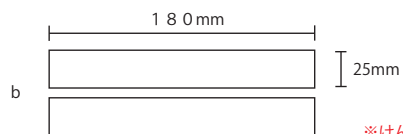
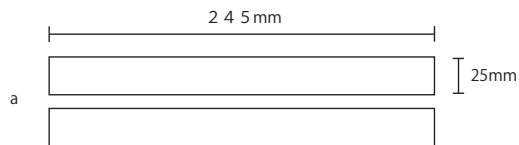
紙やすり #240 1枚
釘 土台用 30-32mm 4本
けんばん用 25mm 16本
取っ手用 25mm 2本

必要な道具

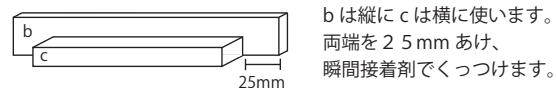
メジャー
L字定規
鉛筆
ノコギリ
インパクトドライバー
下穴ドリル・穴あけドリル

ボンド
瞬間接着剤

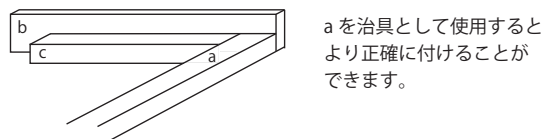
①土台を作る



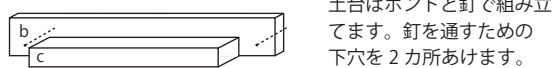
※けんぱんの長さによっては、土台を短くしないといけない場合があります。土台 b.c は高いドのけんぱんの長さに合わせて調節してください。ボンドを付けた組み立ては、けんぱんを切り終わってからにしましょう。



bは縦にcは横に使います。両端を25mmあけ、瞬間接着剤でくっつけます。

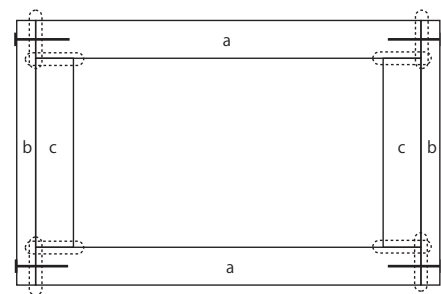


aを治具として使用するとより正確に付けることができます。

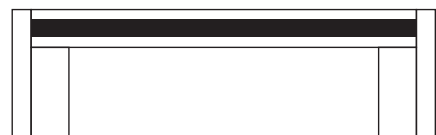


土台はボンドと釘で組み立てます。釘を通すための下穴を2カ所あけます。

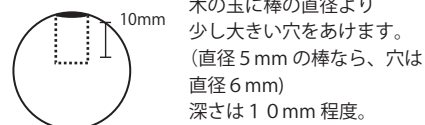
※土台組み立てのイメージ ボンドを付ける箇所



aの部分にすき間テープを貼ります。

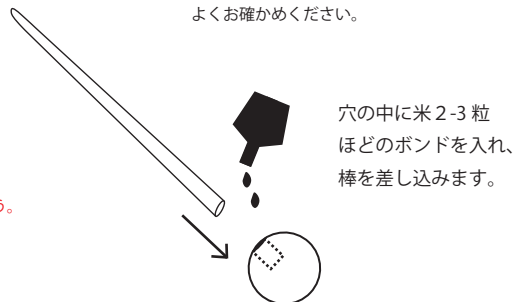


②叩き棒を作る



木の玉に棒の直径より少し大きい穴をあけます。(直径5mmの棒なら、穴は直径6mm) 深さは10mm程度。

※穴あけができなければ、穴の貫通した木の玉で代用もできます。その際は、木の玉の穴の径と棒の直径をよくお確かめください。



穴の中に米2-3粒ほどのボンドを入れ、棒を差し込みます。

※棒が入りにくい場合は、棒の先の部分を金づちで叩くと入りやすくなります。

③けんぱんを切る

ドの音・280mm
※あくまで目安です。角材のサイズや木の乾燥具合などによって変わってくるので、まずは、長めに切って調節していきましょう。

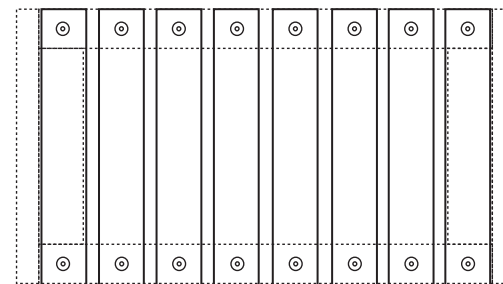
音程の合わせ方
楽器チューナーアプリをインストール。土台の上で叩いてみましょう。音が低い時は、短く切ります。音が高い時は、けんぱんの裏の真ん中を粗めの紙やすりで削って調節しましょう。(表面積を増やすと、音は低くなります。)



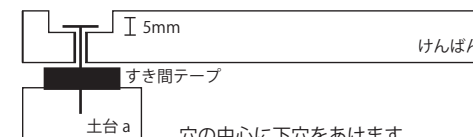
ドの音の長さを基準に、残りの7つの音(レ・ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド)を切っていくきましょう。

注意!! 高いドの長さは180mmより短くなると、土台に乗らなくなってしまいます。もし、180mm以下になったら、土台 b.c の長さを高いドの音に合わせて調節してください。

③けんぱんに穴をあける

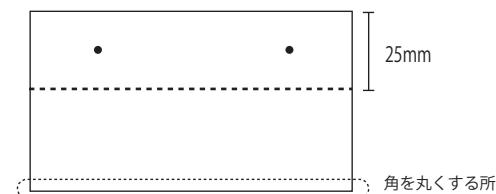


土台 a の幅とけんぱんの幅の真ん中を狙って、深さ 5mm の穴をあけます。釘の頭とけんぱんが干渉しないように釘の頭より少し大きい径の穴をあけましょう。

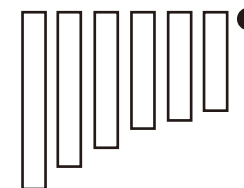


穴の中心に下穴をあけます。けんぱんと釘が干渉しないように釘の太さよりも太い下穴をあけましょう。

④取っ手に下穴をあける



取っ手は最後に土台の裏側に釘とボンドで付けます。釘を通すための下穴を2カ所あけておきましょう。手に当たる所を紙やすりで角を丸くしておくと、持ちやすいです。



yamayobi